



「飛躍の年」2016

 代表取締役
 榎原 弘之


今年も残すところあと僅かとなってしまいましたが、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。年初に情報提供の一環としてスタートしたこの「NEWS*LETTER」も多くの皆様からお会いした際に、「いつも読んでよ」「毎月ありがとう」と温かいお声を掛けていただき、それを支えにこうして1年間継続することができました。ありがとうございました。来年も引き続き毎月お送りさせていただきますので、楽しみにしていただけますと幸いです。

さて、2016年度は皆様方のご支援のもと、数多くの表彰をいただくことが出来ました。この場をお借りして、御礼・ご報告申し上げます。

2月 綱町三井倶楽部 優績募集人表彰	3月 宮崎 優績募集人表彰
4月 サンディエゴ 優績代理店海外表彰	6月 ハワイ プロデューサーアワード
8月 京都 プロデューサーアワード	12月 伊勢志摩 優績募集人表彰

これらの受賞はひとえに皆様方のご愛顧の賜物と衷心より感謝致しております。弊社を代表して私の他、弊社スタッフも参加し、同業の優績な方々との情報交換、相互研鑽の場として有意義なひとときを過ごさせていただきました。

「貢献・責任・信念」2017

今年は、昨年の中国ショックやドイツ銀行の破綻懸念に引き続き、英国のEU離脱やアメリカ大統領選挙におけるトランプ候補の勝利など、市場に影響を及ぼす大きなショックが起りました。市場が荒れる中、弊社の推奨する運用方針でもあります「長期分散投資」の重要性をより一層感じた1年でした。短期的、一過性のマーケット動向に左右されず、長期的視野で資産形成を行うこと、ドルコスト平均法を活用した長期の資産運用にご理解・ご賛同いただきました多くのお客様と新たなリレーションを築くことができました。個人様・法人様を問わず、豊かな老後の実現に向けた「リタイアメントプラン」をお手伝いさせていただきますことを感謝するとともに、弊社も皆様とともに成長し、存続していかなければならないという「責任」を改めて強く感じております。

事業活動の一つの柱として今年より注力したマネーセミナーも、月に2回のペースで年間を通して24回開催することができました。「長期分散投資」を活用した「じぶん年金作り」の重要性を広める活動ができたと思っております。また、2名の新しい事務スタッフを迎え、保険業法改正に対応した社内の体制構築を図りました。来年1月には、新しく1名のファイナンシャルプランナーが弊社の戦力となってくれることが決まっています。社内の充実を図り、皆様方の「お金で困らない未来」へ貢献できるよう誠心誠意努力する所存でございます。より一層のご支援を賜りますよう、従業員一同心よりお願い申し上げます。

尚、弊社の年末年始の休業期間は下記の通りです。

【年末年始休業期間】

12月28日(水)～1月4日(水)

※新年は1月5日(木)午前9時30分より営業開始となります。

時節柄、ご多忙のことと存じます。くれぐれも御身体にはご自愛ください。来年も変わらぬご愛顧をいただけますようお願い申し上げます。



保険がわかる! か・ん・た・ん・Lesson!

どうなる!? 今後の保険業界!!

ファイナンシャルプランナー
堤 太郎



いよいよ今年度最後のニュースレターとなりました。これまで様々な保険商品について解説をしてきましたが、今回は今後の保険業界の動向について解説します。

日本銀行(日銀)がマイナス金利政策を発表してから預金金利や住宅ローンの金利が下がったことはご存知の方も多いと思います。その影響は保険業界にも大きく影響しています。マイナス金利政策が始まりこれまで多くの保険会社で主力商品として販売されていた積立型終身保険や学資保険、個人年金保険といった商品が相次いで販売停止となりました。加えて来年4月には保険料の大幅な見直し(料率改定)が始まります。すべての保険種類においての改定となりますが、特に貯蓄型の保険商品はより大幅な改定が予想されますので、検討中の方は注意が必要です。

マイナス金利政策と生命保険

マイナス金利と聞くと預けた預金が減ってしまうの?と心配されている方もいると思いますが、実際は皆さんの預金に対してマイナス金利が導入されたわけではありません。銀行が日銀に預けている預金に対して導入された制度になります。結果として、銀行は日銀に預けていたお金を引き出し、そのお金を運用する為、大量の国債を購入することになりました。

ではなぜ、マイナス金利政策が保険料の引き上げや、販売停止に繋がるのか?その仕組みを解説します。



生命保険会社は生命保険を販売することで保険料収入が入ります。その保険料収入から経費となる部分を差し引いて将来の保険金等の支払いに備えた積み立てをしています。そしてその積立金の一部は運用されています。運用先としては比較的安全とされている国債で運用しているのですが、マイナス金利が導入されて以降国債が大量に購入され、長期金利がマイナスとなりました。

国債が大量に購入されると、国債の値段が上がるので一時的には運用益が出ます。しかし逆に長期金利はマイナスなので国債を満期まで持ち続けると運用損が出てしまいます。この状況が続けば、保険会社としても将来的な利益が見込めない為、結果として保険料の値上げや、契約時に約束された将来の運用利回り(予定利率)の引き下げ、販売停止といった対応が必要となります。

今加入している保険も条件が変わるの?

既に加入されている保険については途中から契約内容が変更されることはありませんのでご安心ください。あくまでも今後販売される商品について料率改定が行われます。

これから加入を検討される方

料率改定の影響を強く受けるのは今後加入を検討される方になりますが、保険種類によってもその影響の大きさが違ってきます。まず影響が比較的少ないとされている商品が定期保険と呼ばれる掛け捨てタイプの死亡保険と、同じく掛け捨てタイプの医療保険やがん保険です。

最も影響が大きいとされているのは、終身保険や個人年金保険、学資保険といった貯蓄性の高い商品になります。これらの貯蓄型の保険への加入を検討される場合や、保障の上乗せを検討される際は料率改定前に加入できる様、早めの準備をお勧めします。

今年を振り返って

年明けより書き始めたニュースレターもあっという間に1年が経ちました。「正しい情報をつたえたい!!」そんな思いで書くうちに自分自身も改めて勉強することが出来ました。本当にありがとうございました。

来年は料率改定という大きな動きのある一年となります。より良い情報の提供ができるよう、頑張りしたいと思います。来年も引き続きよろしくお願い致します。

知れば知るほど! ナルホド金融経済

トランプ新大統領と日本経済

ファイナンシャルプランナー

松下 新



誰もが驚いたトランプ新大統領の誕生ですが、エコノミストの多くが日本のGDPは押し下げられ、保護主義政策からドルが売られ円高になると予想しています。でもこれは執筆時現在見事にはずれ、株式市場は連日高値を更新、ドル高円安となっています。今回は今後日本が受けるであろう影響をいくつか考えてみたいと思います。

新大統領の公約の実現可能性や経済政策運営が依然不透明なため予想をするのは難しいですが、政治的には孤立主義、経済では保護主義を採る事は間違いないでしょう。経済面ではTPPが公約通り反対された場合、アベノミクスがTPPを前提に進められているため日本はかなりの打撃を受け、成長戦略の見直しを迫られます。具体的には農業改革は大きく後退し、工業製品の輸出は大幅に減少します。医療関係者、薬品メーカーには朗報かもしれませんが、、、すると円安による株価の上昇にも限界があり、国内製造業は再び苦しい経営を強いられることとなります。

ただ、悪い事だけではありません。選挙後のトランプ氏の言動を見る限り12月に注目されているアメリカの利上げは予定通り実行される見通しが現時点では強く、それがドル高円安を強めています。このままドル高を維持



できれば心配される経済リスクはかなり回避されるでしょう。

問題は在日米軍の扱いです。日米同盟維持から米軍の撤退はないとしても既に75%を負担している在日米軍の予算に上乘せを要求されると多大な財政負担が押し掛かり、「自分の国は自分で守れ」という主張は同時に自衛隊への予算増を示唆します。社会保障の負担に加え更なる財政圧迫は避けられず、国債増発と増税が待ち受けます。

こうしてみるといかに日本がアメリカに頼っているかということがわかり、日本リスクと真摯に向き合う必要性を強く感じます。

サンタの来ない子供のために… ルドルフ基金

クラーク

中畑 美絵



「NPO法人チャリティーサンタ」という団体はご存じですか?ここで募っている「ルドルフ基金」。経済的な事情をメインとした家庭の事情でサンタが来ない子どもへ、プレゼントやサンタからの手紙を届ける活動資金として使わ

れます。今の日本にもサンタが来ない子どもがいる。そんな子供たちへの「特別な思い出」を届けるプロジェクトなのです。

ボランティアのサンタクロースは「大人になっても思い出すような、素敵なクリスマスの



思い出を一緒に作ってあげたい」そのような想いを胸にサンタ講習会を受け、オリジナル衣装の制作などを行い、少しでも本物のサンタクロースに近づけるよう努力されているそうです。「NPO法人チャリティーサンタ」のホームページには、「活動を通して誰かを想いやる心が生まれる」そんな感想が載っていました。子供たちだけでなく参加する側にも得るものがある素晴らしい活動ですね。チャリティーサンタでは、「あなたも誰かのサンタクロース。」大人が子どもを想う気持ちが集まれば、世界は変わる、かもしれない。を合言葉にしているそうです。今年ももうすぐクリスマス。「あなたも誰かのサンタクロース」になってみませんか?(NPO法人チャリティーサンタHPより一部抜粋)

親の家の片付け —終活整理を始めませんか?—

ファイナンシャルプランナー
深川 恵理子



12月と言えば、年末の大掃除ですが、忙しくてやっている暇がないと困っていらっしゃる方も多いのではないのでしょうか?

今年は「親の家の片付け」やゴミ屋敷のことがよく取り上げられました。テレビでも片付けがもとでお母さんと娘さんが揉めていらっしゃる様子が流れて切ない想いにかられました。親子だとどうしてもストレートな物言いになってしまい、喧嘩になりやすいものですね。

戦後の高度経済成長やバブルを体験した親世代は「物を所有すること=幸せ」とずっと思ってきました。また、「物を捨てること=勿体無い」と紙袋や空箱も沢山残しています。そして、何よりかけがえのない思い出がいっぱいでとても捨てられません。

もう一つ片付かない原因は、歳を重ねる毎に体力も気力も衰えて来ることがあります。重い物を持ち上げるのは大変で面倒ですから高い棚に戻せず、ついでの時に戻そうと床に置きそのままになってしまいます。記憶力も低下しストックの把握も大変。更にテレビを付ければ、電話一本で届く安くて魅力的な通販商品が目白押しでついつい買ってしまいます。

さて、そんな捨てるに捨てられない物で溢れた実家をそのままにしておくこんな困ったことが起こります。

①家庭内の転倒事故につながります。

床に置いてある物に躓いて骨折し、それが原因で寝た

きりになられる方もいらっしゃいます。85歳以上では転倒・転落がもとの死亡は20%を大きく上回っているそうです。

②相続トラブルの原因になります。

通帳、保険証券がどこにあるかみつけられません。そのため、お子さんの一人が医療費や葬儀費用を立て替えて支払ったにもかかわらず、その後、相続で揉めて泣き寝入りしたという話をよく聞きます。

③遺品整理が大変!

残された遺品の処分は家族にとっては辛いものです。片付けの手間だけでなく、精神的な負担もかかります。さらに貴重な時間を奪うことになり、その上、予想外にかかる費用は大きな負担となります。

先ずは我が家の大掃除や片付けを先にしませんか?

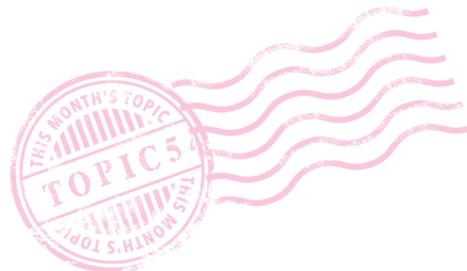
なかなか気が重い終活整理です。まずはあなたから始めてみましょう!

自分が出来ないことを人に望んでもなかなか上手く行きませんが、「きれいになったら、こんなに気持ちいい!」とまず実感して下さい。その上で親御さんに勧めれば、きっとスムーズにとりかかっただけだと思います。と一緒に思い出やさまざまな話をしながら、ぜひ片づけてみて下さい。きっと素晴らしい時間が持てると思います。大切なお父様やお母様が毎日快適に暮らせるようこの年末年始トライされてはいかがでしょうか。

今年もいろいろお世話になりました。

来年も皆様のお役に立てますよう日々励みたいと思っています。

お力添えのほどよろしく願いいたします。どうぞよい年をお迎え下さい。



差出人・連絡先

アルシアコンサルティング株式会社

〒251-0023 神奈川県藤沢市鵠沼花沢町2-3 PHビル2階
TEL: 0466-54-8417 <http://www.arxia.jp/>

掲載内容等に関するお問い合わせは各担当営業まで。
禁無断転載 Copyright Two Way Communications Inc.